

プロボクサー

# 阿部麗也

幼い頃から憧れたボクシング  
高校卒業と同時にグローブを吊るすも、  
再びリングの上に戻ってきた  
プロでその才能を一気に開花させ、  
まばゆいばかりの輝きを放つ

## Profile あべ・れいや

1993年3月生まれ、町内旭町出身。プロボクサー。KG大和ボクシングジム(神奈川県)所属。プロデビューは2013年6月。第61回全日本フェザー級新人王。小学生の時からボクサーに憧れ、県内の名門校、会津工業高でボクシングを始める。高校3年時の国体ではベスト8。現在日本フェザー級15位。プロ通算9戦8勝(4KO)1敗



Photo by Taro Okudaira



Photo by Taro Okudaira

昨年11月の東日本新人王決定戦では1回KOで鮮やかに勝利。阿部のパンツ背面には「天才ですから!」の文字と「2011.3.11がんばって福島!」とふるさとを応援するメッセージが載る

ムの片渕剛太会長に「プロでやってみないか」と声を掛けられ、眠っていた小さい頃からの憧れを思い出した。  
再びボクシングに打ち込むようになった阿部は、仕事が終わると毎日のようにジムに通った。「プロでは、高校の時と違って顧問の先生はいません。自分で練習メニューを決め、サンドバッグを叩いたり、シャドーをしたりしなければならぬ。高

校時代のハードな練習に耐えてきた精神力が、今役に立っているんです」と話す。

アマチュアとプロのボクシングは、大きく違う。頭部を守るヘッドギアは無くならず、小さくなったグローブは、石のように硬くなる。パンチの一発一発に恐怖がつきまとうのだ。

デビュー戦は「とても緊張したし、怖さもあった」という阿部。なかなか本来の力を発揮できず、プロデビュー2戦目で初めての敗北を経験する。

「2戦目で負けてからは吹っ切れました。今思えば、あの時負けてよかったのかもしれない」と阿部は振り返る。

3戦目では、プロになって初めて攻撃的なボクシングを見せ、対戦相手を圧倒。アマチュア経験豊富な実力のある選手を相手に、判定勝ちを収めた。

「2戦目までの消極的なボクシングとは明らかに違っていました。この試合で、阿部が化けたかもしれないと感じました」と片渕会長は振り返る。

## 東日本、全日本の頂点へ

東日本新人王決定トーナメントでは、5戦中4つのKO勝ちを収めた。判定勝ちの試合でも相手からダウンを奪っている。

本町出身のプロボクサー、阿部麗也選手(以下敬称略)が第61回全日本新人王決定戦のフェザー級で優勝し、新人王のタイトルを手にした。  
昨年12月21日、10階級で東西の代表が拳を交え、新人王を争った会場の後楽園ホールは、ボクシングファンや関係者で超満員となった。その中には、猪苗代から応援に駆け付けた友人や家族の姿もあった。  
試合では、サウスポーの阿部が初回から要所で左ストレートを決めるなど、自分のペースで試合を展開。2回にはダウンを奪うなど、相手選手を圧倒した。5回を戦い抜き、判定の結果が場内にアナウンスされると、阿部はリングの中央で拳を高々と突き上げた。

## ボクシングとの出会い、そして別れ

阿部が小学生の時、テレビで世界王者だった畑山隆則の試合を放送していた。その試合を見た阿部は「男らしくてカッコいい。すぐにもボクシングを始めたい」と胸を熱くしたが、周囲にその環境はなかった。

小、中学校時代は、バスケットボールに汗を流す一方、砲丸投げの選手としても活躍。現在

準々決勝で優勝候補の筆頭だった選手に勝利すると、決勝では、1回に2度のダウンを奪ってKOし、敢闘賞を受賞。選手層の厚い激戦の階級を勝ち抜いた。

「応援してくれる人たちのためにも、絶対に負けられないと思った。新人王を取ることができて本当によかった」と阿部は安堵の表情を見せた。

## これからが勝負

全日本の新人王になると、日本ランキングの最下位にランクされる特典を得る。阿部は新人王になると同時に、日本ランキング(15位)にもなった。過去の全日本新人王には世界

まで阿部の武器になっているフットワークの良さやパンチ力は、この頃培われたのかもしれない。

中学校卒業後、会津工業高校に進学。念願のボクシング部に入学した。

「練習がきつい。顧問の先生も厳しい。食べ盛りの高校生でしたから、普段からの食事制限や試合前の減量も辛い。部をやめようと思ったことも何度かありましたが」と阿部は笑いながら振り返る。きつい、辛いと言いつつも、ながら続けた練習で力をつけた結果、県大会や東北大会で優勝、国体でベスト8に入るなどの活躍を見せた。

高校限りでボクシングをやめようとした阿部に対し、当時の顧問は、大学に進学してボクシングを続けるよう勧めたが、心は動かなかった。  
神奈川県に就職も決まり、ボクシングから離れ、働きながら都会での生活を満喫するつもりだった。

## プロでの再挑戦

しかし、しばらくするとまたボクシングがしたくなった。

興味程度に汗を流そうと、職場の同僚と一緒に門を叩いたKG大和ボクシングジムで、同じ

王者になった鬼塚勝也、竹原慎二なども名を連ねる。ボクサーを志すきっかけとなった畑山も同タイトルを手にした一人だ。

一方で、新人王になったボクサーのうち、およそ8割はランキング外に落ちてしまう。経験豊富な上位ランカーの壁は厚く、勝つことは決して簡単ではない。

「今後は力のある選手との対戦になるので、何とか勝ってきたい。これからが勝負。ランキングを上げていって、2、3年後には日本タイトルに挑戦したい」と抱負を語る阿部。

次戦は3月17日、2013年の東日本新人王との対戦。阿部の新たな挑戦に向けたゴングが鳴る。

## Interview

KG大和ボクシングジム  
片渕 剛太 会長



阿部は、センス、スピード、スタミナ、切れ味が鋭く威力のあるパンチなど、多くの長所を持つボクサー。昨年の全日本新人王の中でも3本の指に入る力があると思っています。将来、チャンピオンになれるだけの器を持った選手です。

とはいえ、これからは経験豊富なA級ボクサーとの対戦になります。簡単には勝たせてくれないでしょうし、連戦連勝というわけにはいかないかもしれません。

本人の努力次第ですが、見た目には似合わず(笑)、練習に取り組む姿勢は真面目で、弱音も吐きません。このままいけば、日本にとどまらず、東洋太平洋タイトルに手が届くと思います。そして、さらに上を目指してほしいです。しっかりと実績を積み重ね、実力のある、本当に強いチャンピオンになってほしいと思っています。